

- ・「学友会」組織の構築

昨年度から、課外活動団体を束ねる「学友会」を立ち上げた。教職員及び学生から会費を徴収し、それを運動部、文化部、学友会の各行事に分配することになっている。「学友会」は学友会総務部の学生が中心となり、教職員の役員とともに会の運営にあたっている。対象となる課外活動団体とその人員は、運動7部174名、文化10部207名、同好会31団体754名、翔風祭実行本部45名、学友会総務部14名の合計1,194名である。

- ・学園祭のイベントとして、一昨年に結成された「よさこいソーラン同好会・情喜源（じょうきげん）」が、農大（世田谷・厚木・オホーツクキャンパス）及び東京理科大学の「よさこいソーラン同好会」の学生たちを招待して演舞を行った。

- ・「強化種目（部）」として指定されている指定部は、現在のところ硬式野球部（平成12年度から）だけであるが、今後これに刺激を受けて、力をつけた団体にも指定枠を広げる予定になっている。硬式野球部は、地域の少年野球大会を主催し、優勝チームには「学長杯」を授与するなど地域貢献の活動も行っている。

- ・「運動選手特待生」の制度化。平成14年度に第一種（入学金、授業料、実習演習費、整備拡充費及び学生厚生費を免除）1名、第二種（授業料免除）1名でスタートしたが、平成15年度からは第二種を2名に増やした。

点検・評価 **長所と問題点**

学生会館の完成に伴い、大学祭を中心とする課外活動は活性化してきているが、まだまだ不十分なところがある。一般学生の滞校時間をさらに伸ばすような工夫が課題として残されている。

将来の改善・改革に向けた方策

近い将来の課題として、硬式野球部が千葉県大学野球連盟1部リーグで優勝し、全国大会に出場することになると、課外活動全体の起爆剤になるであろう。それとともに発足したばかりの「学友会」の活動を軌道に乗せて、課外活動の底上げをすることが急務となっている。

【大学院の学生生活への配慮】

1 学生への経済的支援

（1）奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

現状の説明

本大学院には、人物、学業とともに優秀な学生に対し、経済援助を行うことにより、学術研究の奨励と有為な人材育成に資することを目的として大学院奨学生制度がある。

大学院奨学生には、第一種奨学生と第二種奨学生とがある。いずれも入学試験の合否判定の際に選考を行い、本人に通知することになっている。第一種奨学生は、各年次の授業料及び整備拡充費の2分1に相当する額を減免することによって支給している。第二種奨学生は、入学時における入学金の全額を免除することによって支給している。

2 生活相談等

(1) 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮の適切性

現状の説明

学部学生と同様に健康診断等を行い、健康管理に対し配慮している。

3 就職指導等

(1) 学生の進路選択に関わる指導の適切性

現状の説明

システムエンジニアや会計分野を目指す学生については進路選択が充実しているが、分野によっては就職が厳しい状況にある。

点検・評価 長所と問題点 将来の改善・改革に向けた方策

大学院に対しては、学部のような就職課によるきめ細かな就職指導は実施されておらず、今後大学院学生に対する進路選択に関わる指導体制を検討していきたい。

X 管理運営

【大学・学部の管理運営体制】

1 教授会

(1) 教授会の権限、殊に教育課程や教員人事等において教授会が果たしている役割とその活動の適切性

現状の説明

東京情報大学学則第36条において「本学の学部に教授会を置く。」と定めており、第36条第2項第2号で「教員の候補者の選考等人事に関する事項」を審議すると規定している。また、東京情報大学教授会規程第3条第1項第2号にも同様の記載がある。